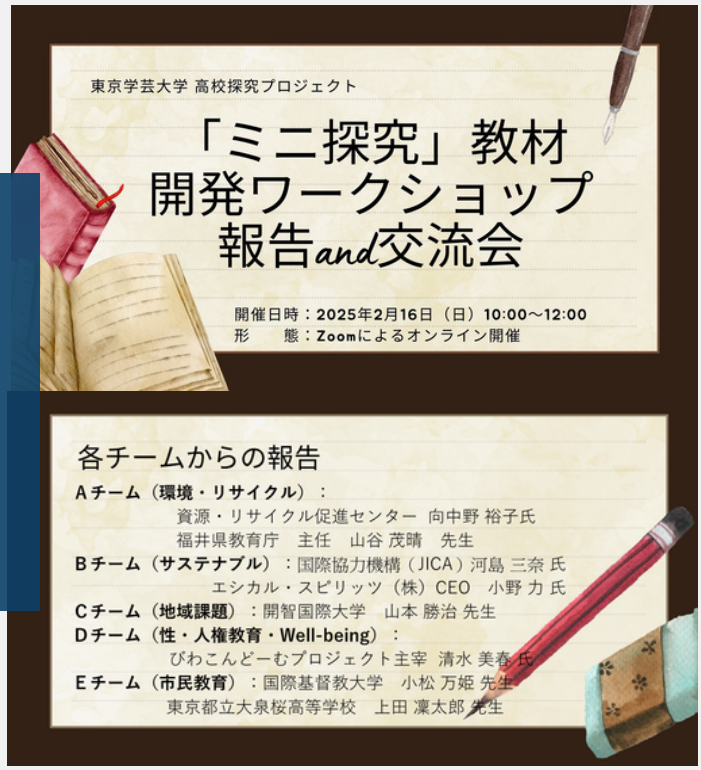
東京学芸大学高校探究プロジェクト

Vol.43, FEB 2025.

Let's TANQ便り

「探究的な学びの実践コミュニティ」拡大に向けたニュースレター



学校教育で「総合的な探究の時間」を実施する意義の実現に向けて

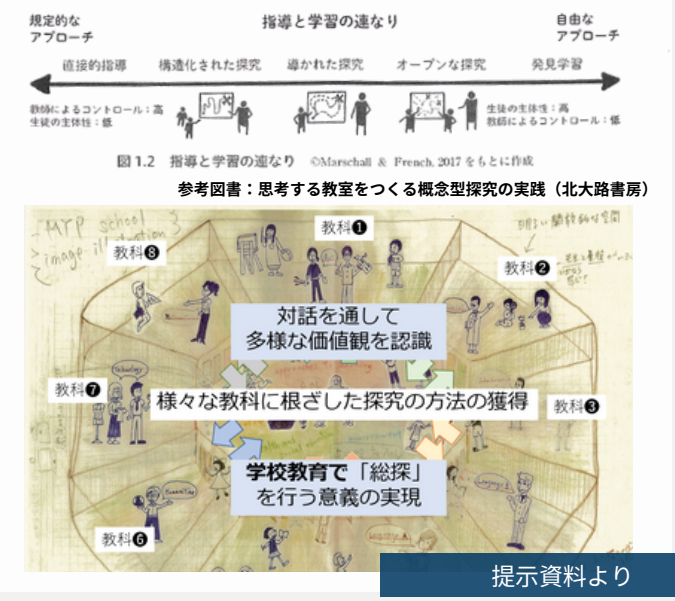
「ミニ探究」教材の開発では，右上図の「導かれた探究」に注目しました。「導かれた探究」は，探究に必要なスキルや姿勢を育成することにより，生徒が「構造化された探究」から「オープンな探究」へと移行するプロセスを助けます。その際，教師は「戦略的なファシリテーター」として，生徒の探究を導きつつ，意思決定に関わる機会を提供することになります。

また，これからの社会で重要なのは，**専門を深める「I型」だけでなく，幅広い知見を持ち異分野とつながる「T型」「H型」**もあります。これらは，高校の探究活動でいうと，異なる分野の視点を対話を通じて結びつける活動であり，文理融合的な学びの意義もこれに位置づきます。右下図でいうと，真ん中に一つのテーマを置いたとき，生徒は得意分野，先生は自分の教科に戻ってそれぞれのアプローチを考え，またそれを持ち寄ります。そして対話を通して，**多様な価値観に触れ合い，考え方を交流します。このような活動にこそ，学校教育で「総探」を行う意義がある**と考えています。この実現のために，テーマごとに各教科の視点を活かし，対話を通じて「ミニ探究」教材を開発することを目指しました。（全３回のワークショップの様子はVol.41参照）

2月16日「『ミニ探究』教材開発ワークショップ」 報告＆交流会を開催！！

高校探究プロジェクトでは，9月から，一人ひとりの教員の「教科と総探の相互還流」を目指す「『ミニ探究』教材開発ワークショップ」を全３回にわたり開催しました。全国から集まってくださった先生方や一般企業の方々で，「環境・リサイクル」「サステナブル」「地域課題」「性・人権・well-being」「市民教育」の ５つのテーマ別にチームを結成し，「ミニ探究」教材の開発に取り組んでいただきました。**私たち教員自身が「答えのない問いに対して，視座を上げ下げしながら一緒に探していく時間が大切だ」と実感できる場**となりました。この取り組みや成果を広く共有したく，去る2月16日にオンライン報告＆交流会を開催しました。

オープニングで，西村リーダーより，「探究」となると「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」のサイクルをまずは一周回してみようというのが目標になることが多いが，「総合的な探究の時間」の目標を見てみると，「横断的・総合的な学習を行うことを通して」とあり，“横断的・総合的な学習”になっているかどうかという検討も重要。**どの教科の学びも意識されず横断的・総合的になっていないということが起きているのではないか。教科の探究的な学びと総合が行ったり来たりする学びの場がないのではないか。**という問題提起の後，この学びの場をみんなでつくるという，本ワークショップの意図が説明されました。

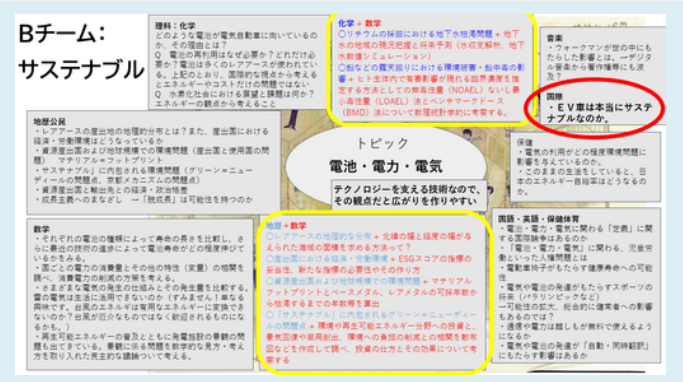


提示資料より

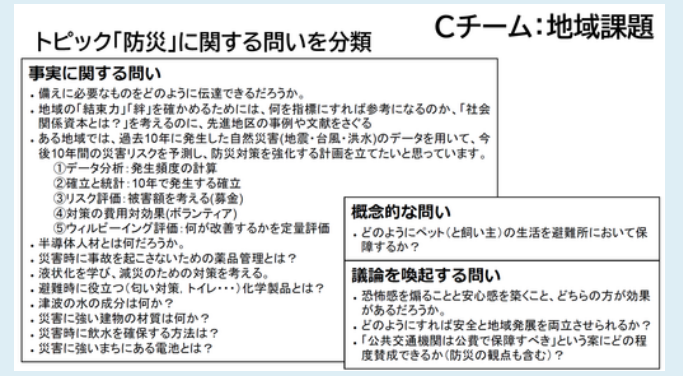
各チームの報告の様子＆コメント

各チームの教材等に関心がある方は事務局までお問い合わせください。アーカイブ動画や資料等を共有します！

【チームメンバー】同じ目的を持った人たちとの対話はとても楽しく，刺激・元気，出会いをいただきました。とても良い時間を過ごさせていただき，**次年度，ワークショップの成果を自校で実践する計画**です。
【2.16参加者】「水」をテーマに設定し，教科の見方･考え方を働かせて授業をデザインされた報告を伺い，教科に結びつけて考えやすくイメージが膨らみました。

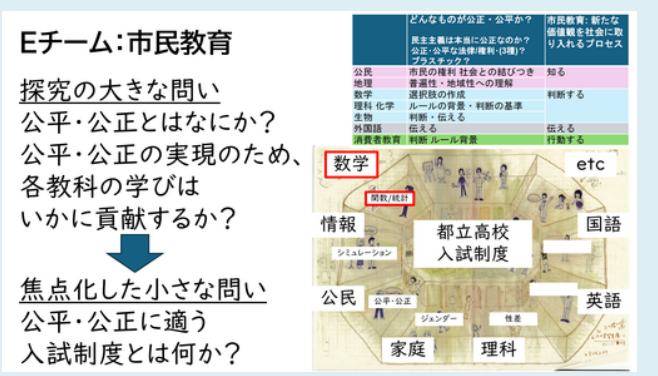


【チームメンバー】途中，問いの持ち寄りの行き詰まり感やバラバラ感が課題としてあがりましたが，他教科からの問いを調べていくと，**自分の教科の見方･考え方につながる問いを発見**できたり，**他教科と関連付け**たりできるという解決の1つの方法を見いだせました。プロダクトより**プロセスに学び**がありました。



【チームメンバー】関心や立場が異なる方々と議論しながらアイデアを共有できたことが何より良かったです。最初は，各教科の見方・考え方を活かしながらどのように「教科横断」を図っていくかという点に重点が置かれていましたが，後半は概念的な理解，それに伴う３種類の問いについても検討することになり，限られた時間で消化不良になってしまいました。
※実際に，1月には『**防災グッズの開発**』をテーマに総探で取り組まれたと伺いました。また，現在『**防災×化学×地域**』の実践をされているという報告をうけています。

【2.16参加者】多様な立場の人が対話して授業をつくるやり方が良いと感じました。そのうえで，「この問いは国語と地歴に関係している」など，「教科→問い」より**「問い→教科」の方が転移しやすい**と思いました。
【2.16参加者】「課題：テーマがまとまらない → 対策：具体的なテーマ設定 → 新たな課題：テーマに引っ張られてしまう → 対策：「色」という抽象度を若干上げたテーマ設定」という，具体と抽象の往還のプロセスは課題解決の方法論の1つとして有益な情報でした。



【2.16参加者】「公平・公正とはどのようなものか」というテーマで，「機会の平等とは何か」といった小テーマについて，**各教科の特性を生かし**，公民や地理で学ぶ現代社会の構造やさらに平等とは何かという歴史的な観点や人としての倫理観等を考え，数学や理科などでは「機会の平等」に根拠を与える探究を考えていくことにより深い学びがあると感じました。

参加者からのコメント

・ワークショップでの**授業デザイン自体が探究のプロセスを踏んでいて**，大変興味深かったです。
・教科での「探究的な学び」をどのようにしていけば「総合的な探究の時間」等につなげていくことができるかについて考えるヒントが得られました。
・様々な教科・学校・立場の方と対話をすることができ，視座を上げ，視野を広げることができました。**教材というプロダクト（結果）だけでなく，開発というプロセス（過程）を共有することで，自身の実践の場に帰った際にも自走できる素地をいただくことができました**。このような学びの機会と日常の教育実践の往還によって，生徒にとって意味のある学びを共創していくことができるのではないかと感じました。
・教科横断の意義は理解していますが，現場では時間が取れず簡単にいきません。今回参加して，**「ちょこっと横断」みたいな形でもよいのかなと思えて，少しハードルが下がった**ようにも感じられました。

〒184-8501
東京都小金井市貫井北町4-1-1　東京学芸大学 高校探究プロジェクト
TEL：042-329-7927　E-Mail：g-tanq@ml.u-gakugei.ac.jp　URL：https://g-tanq.jp/